

2. 三念沢のホタルの育成

(1) ホタルを育てる事業の概要

最近身近に見られなくなったホタルが本校の西にある三念沢上部に毎年出現する。昔から豊野地区に生息してきたホタルであり、地域の方々は今後も豊野のホタルが舞い続けてほしいとの願いを持っていた。「ホタルの棲む三念沢を大切にしよう」との地域の願いは、三念沢の上部を整備し、生物が住める小さな池をつくることに結実された。そこには、沢で子どもたちが自然に親しんでほしいとの願いもこめられていた。「三念沢の自然を守る会」は上記の活動の成果を未来に繋げるために組織されたものであり、毎年活動を続けながら思いを伝えている。



地域主体の行事であったが、6年生がホタルの育成に関わり、ビオトープ等を中心に整備することになっていた。100周年記念事業として始められたホタルの育成も、学校との関わりは薄れてきた時もあった。平成22年度に行われた120周年記念事業では、三念沢のホタルの幼虫を学校で育て、ホタルが舞う学校を目指した総合的な学習の時間の取り組みが発表された。

川をきれいにしたり、ホタルを育てたりする経験は子ども達が豊かな体験を積むよい機会である。ホタルの育成は地域とともに始められた活動であり、地域の活動と学校の教育活動とが結びつく良い機会である。

① 学校目標との関わり

本校の重点目標である「自分の言葉で伝えられる子ども」に迫る方策として、ホタルを育てる体験は良い素材と思われた。子どもたちは、「伝え合う」経験をつむことでさらに成長できるのではないかと。

子どもたちの学習ノートをみせてもらいながら、ホタルの学習での体験を伝え合うことを通して学級づくりができることも考えられる。感想を書いて発表するだけでなく、互いの意見を関係づけて話し合う方法や話し合いのルールづくり等にも話し合いの場面で身につけることもできる。



② 全校との関わり

6年の子どもたちがホタルについて学習している様子を校長講話に取り上げた。全校の子どもたちに地域の取り組みを知ってもらいたいこと。そして、6年C組の取り組みを伝えることで学級の子どもたちが自分たちの活動を誇りに思えることを願ったものである。

(校長講話より)

先日、三念沢のホタルを見に行きました。ホタルは、道を少し入ったところからたくさん見られるようになり、光を点滅させて飛んでいます。山の奥ではあっちから、こっちからホタルが飛び立っています。とんで光ったり草むらで光ったり。今年はいつもの年に比べて少ないと聞いています。けれどもとてもきれいな景色でした。今日は、ホタルについてお話ししたいと思います。

先月の24日に三念沢のホタルを守る会の山岸先生が6年C組でお話をしてくださいました。

山岸先生のお話では、先生たちが子どもの頃はこのあたりもホタルがたくさん飛び回っていたということです。けれども、だんだんと住みにくくなってきたためでしょうか。三念沢の上の方にしかみられなくなったようです。「ホタルが飛ぶ町にしよう」「ホタルをもっと見られるようにしよう」と、20年ほど前から三念沢を整え始めたとのことです。

山岸先生のお話を聞いて、6年生のS君は「ホタルが育つのに必要な環境は、えさのカワニナがいるところ、水のきれいなところ、水温が低くないところ、明るくないところなどと教えてもらいました。」と発表してくれました。またF君は「ホタルや学校のビオトープのことで、くわしくわかりました。昨年は1000匹もいたと聞いてびっくりしました。僕はホタルを守る気持ちになりました。」と発表してくれました。

ホタルが育つ様子を説明 (略)

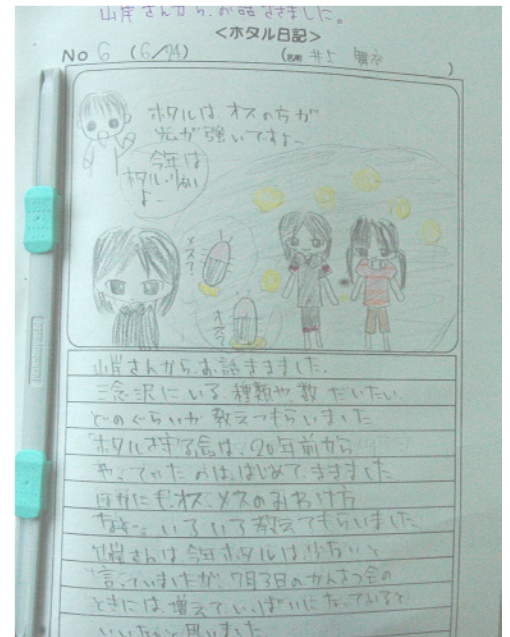
ホタルについて勉強した6年C組の代表4人にお話を聞きました。4月に、ビオトープの藻をとってきれいにしました。次に、昨年までいらした保科先生よりいただいたホタルの幼虫を観察し、ホタルについて学級で調べたり、三念沢の清掃活動を行ったりしたとのことです。

学習ノートにTさんは、「川には、ビニールやペットボトルが所々ありました。水はすごくきれいで、川底がしっかり見えました。思っていたよりカワニナが少なかったです。ホタルは水が汚いとだめなので、私もきれいにできればいいと思いました。とノートにまとめてありました。

Iさんは、今年はホタルが少ないということで、たくさんのホタルが見られればいいな。それから、自分たちは、池をきれいにする時も、幼虫が地面に潜れるように、石の上に乗って、池に近い土の上に乗らないようにしている。全校のみなさんも、池の周りを踏みつけないように注意してほしいと話していました。

地域の人たちは20年以上もゴミを拾い、カワニナが育ち、ホタルが休めるよう三念沢の整備をしてきました。ホタルはきれいな環境のところに住むと言います。学校もきれいに整えておきたいですね。

これからも豊野のホタルを大切に、ホタルについていろいろな勉強を続けていってこれればといいなと先生は思っています。



③ 地域との関わり

本校の位置する石地区では、毎年5～6月に「三念沢の整備をする会」並びに「ホタルをみる会」を実施している。整備作業やホタルの観察には数名の職員も参加する。終了後の反省会にも出席し、地域の方々の考えをお聞きした。昨年度の「ホタルを見る会」での声は、「一昨年度は大変たくさんのホタルが見られたが、今年はホタルの数が少なく寂しい」とのことであった。生物数のサイクルによる増減かそれとも他に原因があるのか、地区の事務局の方々は、長野ホタルの会三石先生より指導を受けたり、ホタルのことについて相談されたりして対策を考えた。その結果、ホタルの数が減った原因として、えさとなるカワニナが少なかったのではないかと、ということがあげられた。地域の方の要望を受け、学校として次のような取り組みをした。

・カワニナを校内で育てる

理科室の水槽にメダカと一緒に育てる

ビオトープに育てているカワニナを6年教室で育て、興味を向けさせたい

・カワニナの採取と放流

隣の地区を流れている用水路にはカワニナが大量に発生する場所がある。以前に採取していた活動を復活させたい。子どもたちも一緒にカワニナを採り、沢に放す活動を通して興味を深めさせたい。

(3) 体験活動を通しての子どもの学び

上記の学級とは異なるが、今年度も同様に活動した。地区でのホタルを見る会が行われた後、カワニナを集めたりビオトープを整備したりしたホタルの学習を振り返ってアンケートをとった。子どもの感想を次に載せる。

- ・カワニナ採りで普段入らない川の中に入れたこと。土曜日に石地区の集まりでホタルを見に行ってみて見えたこと。カワニナを採っているんな大きさのカワニナがいて見つけるときとても楽しかった。
- ・ビオトープにはカワニナなどの他にもヤゴなどの虫がいてぼくはすごく自然豊かだと思いました。
- ・ビオトープにはカワニナをたくさん放してホタルの棲みやすい環境をつくりたいなと思いました。あと幼虫やさなぎの時もホタルは光るといってびっくりしました。他にもホタルは自分の体にあつたカワニナを食べているときいてこれもびっくりしました。ホタルは光が嫌いだということも分かってすごく良かったです。ぼくは来年や再来年には学校のビオトープにもたくさんのホタルが光ってとてもきれいな学校になってほしいです。
- ・まだまだ、自分たちでやらなければいけないので、今よりもっと力を入れてホタルが棲みやすい環境にどんどん変えていきたいと思います。でも、たぶん自分たちが卒業するまでにすべての作業（ホタルが住める環境にすること）終わらないと思うので、5年生にもがんばってほしいと思います。でも自分たちのやるべき仕事は完璧に終わらせたいです。
- ・ぼくは、ホタルを育てたり増やしたりする活動をしています。やるのは大変だけど、何かの役にたつならいいです。あと、ホタルはほとんど生きている時間は短いのでかわいそうだと思った。でも、ホタルという生き物は、その中でも命を受け継いでいるとはすごいと思った。最後にホタルという生き物はすごいと思った。
- ・今までホタルのために、ビオトープそうじやカワニナを採ったり育てたりしたけれど、いろいろと大変なこともあったし楽しかったこともあった。これからも、ビオトープをきれいにしたりして、たくさんのホタルがすめるような環境にしていきたい。たぶんこれから、西小にもホタルの幼虫が出てくるときなので、石、池の周りなどをふまないようにしたい。豊野のホタルは違うところから持ってこないで自前で育てているのにはおどろいた。

○今後も続けて いきたいこと	ホタルが棲む学校にしたい	58%
	今まで続いてきたホタルの育成で、自分たちも役割をはたしたい	38%
	豊野や地域の環境を整えていきたい。	25%
	学校のビオトープをきれいにしたい	54%
○活動を通して 興味を持った こと	ホタルの生態に興味を持った	38%
	ビオトープの清掃が楽しかった	53%
	カワニナ採りが楽しかった	63%

(感想文に書かれていた子どもたちが興味を持った項目、やってみたいことの抜き書き)

子どもたちは、ホタルを育てる活動を楽しかったと感じ、本校は自然豊かな環境にあることを理解している。また、ホタルに関わる活動を通して、生命への気づき、ホタルやカワニナの生態への興味、先輩から続いてきたホタル育成への責任、地域から期待されている自分たち、地域を大切に思う気持ち等、多くの気づきがみられる。これらの子どもの思いや発見は、学級活動や総合、並びに教科学習に発展させることでさらにダイナミックな活動を展開し、子どもたちの学習意欲を高める方策とすることも考えられる。